

児童の実態 - 朝食喫食率 97.5% - 給食残食率 3.7% - 明るく活発な児童が多い。 - 栄養バランスを考えて食事をする意識の定着が不十分。	学校教育目標 地域とつながり 豊かな心と言葉で 自ら学ぶ児童の育成 めざす子ども像 支え合い高め合う国府っ子 ○自ら学ぶ子 ○心のあたたかい子 ○元気な子 健康教育目標 普遍的な健康課題や、日々の生起する健康課題に対して、よりよく解決していく能力や資質を身につけ、生涯を通じて健康で安全な生活を送ることができるようにする。	第4次食育推進基本計画 - 朝食を欠食する子 0% - 栄養バランスに配慮した食生活を実現する国民 50% 府中市第4次食育推進基本計画 - 朝食を欠食する子 0% - 自分に適正な食事量・内容を知っている子 80% 保護者の願い - 基本的生活習慣の確立 - 自主自立ができる子
---	--	--

食育の視点 - 食事の重要性 - 心身の健康 - 食品を選択する能力 - 感謝の心 - 社会性 - 食文化	食に関する指導の目標 (知識・技能) 食事の重要性や栄養バランス、食文化等について理解し、食事マナーを身に付けるようにする。 (思考力・判断力・表現力) 健全な食生活をするために何が必要かを考え、自ら管理・判断できる能力を養う。 (学びに向かう力・人間性等) 栄養バランスに配慮した食生活を実践しようとする態度や、食に関する感謝の気持ちを育み、食事を通じた人間関係形成能力を養う。
---	---

保育園	1・2年生	3・4年生	5・6年生	中学校
健全な食生活の基礎を育む。	- 食べ物に興味関心を持ち、食事マナーを守って楽しく食事ができる。 - 食事のあいさつの大切さがわかる。	- 食事に興味関心を持ち、心身の健康を考えた食事ができる。 - 環境に配慮した食べ方を考え、食べ物を大切に食べることができる。	- 食事に興味関心を持ち、栄養バランスに配慮した食生活を実践できる。 - 食料の生産等に関わる人々や自然の恵みに支えられていることを理解し、感謝して食べることができる。	食事の重要性を理解し、望ましい食習慣を主体的に身に付けようとする生徒を育成する。

食に関する指導 - 教科等における食に関する指導：関連する教科等において食に関する指導の視点を位置づけて指導（社会、理科、生活、家庭、体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動 等） - 給食の時間における食に関する指導：〔食に関する指導…献立を通して学習、教科等で学習したことを確認 給食指導…準備から片付けまでの一連の指導の中で習得〕 - 個別的な相談指導：肥満・やせ傾向、食物アレルギー疾患、スポーツ、食に課題を有する児童
--

家庭・地域との連携 学校だより、給食だより、保健だより、ひろしま給食・「府中のイチ推し食材♪みんなで食べたい府中市メニュー」への応募、食に関する講演会、懇談会、生活がんばりカードの活用
--

地場産物の活用 地場産物等の校内放送や掲示資料等を活用した給食時の指導の充実、教科等との関連を図った指導 JA・地域の人との連携(ゲストティーチャー)
--

食育推進の評価 活動指標：食に関する指導(給食の時間、教科等、個別的な相談指導) 給食管理(栄養管理、衛生管理) 連携調整(食に関する指導、給食管理) 成果指標：朝食喫食率、給食残食率
